

九電松浦 1号機、営業運転開始

かねてから建設中でした、九州電力株式会社松浦発電所（長崎県松浦市）1号機がさる6月30日をもって営業運転を開始しました。

当社は昭和59年末の先行工事着手以来約4年半、同発電所建設に携わってきましたが、今後は保修体制のもとで尽力していくこととなります。

松浦発電所は、石炭火力としては我が国最大出力の70万KWを誇る海外炭専焼石炭火力発電所で、幾多の最新技術（DSS機能・タービンEHC及び電算機制御の排煙脱硫装置の採用など…）を導入した高効率発電所です。また、各建物や装置などはパールブルーを基調としたカラーコーディネートが施され、敷地内の3割近くを占める緑化と共に「自然の中の発電所」としても多くの注目を集めています。

当地は近い将来、同規模の2号機と電源開発株式会社1、2号機



◁松浦発電所1号機

（出力各100万KW、1号機は平成2年7月運開目指し建設中）を併せて、発電容量340万KWの一大電源地帯となり、電源多様化の一翼を担う予定になっています。

また、当社「松浦建設所」は従来どおり継続して工事を行っており、現在は二次発注作業所、電発ボイラ作業所において各種付帯工事等を鋭意行っています。

なお、九電1号機運開までの主要工程は以下のとおりです。

59年12月 当社、松浦作業所を設置（先行工事着手）

62年4月	脱気器吊上げ。名称を作業所から建設所に
7月	ボイラーヘッダ揚げ
8月	復水器据付開始
10月	発電機オンベース
63年2月	タービン・発電機ロータ挿入
6月	受電
11月	ボイラ火入れ
12月	タービン通気
元年1月	発電機初併列、排脱通煙
2月	約1ヶ月間の機械停止、点検試運転
6月	営業運転開始